

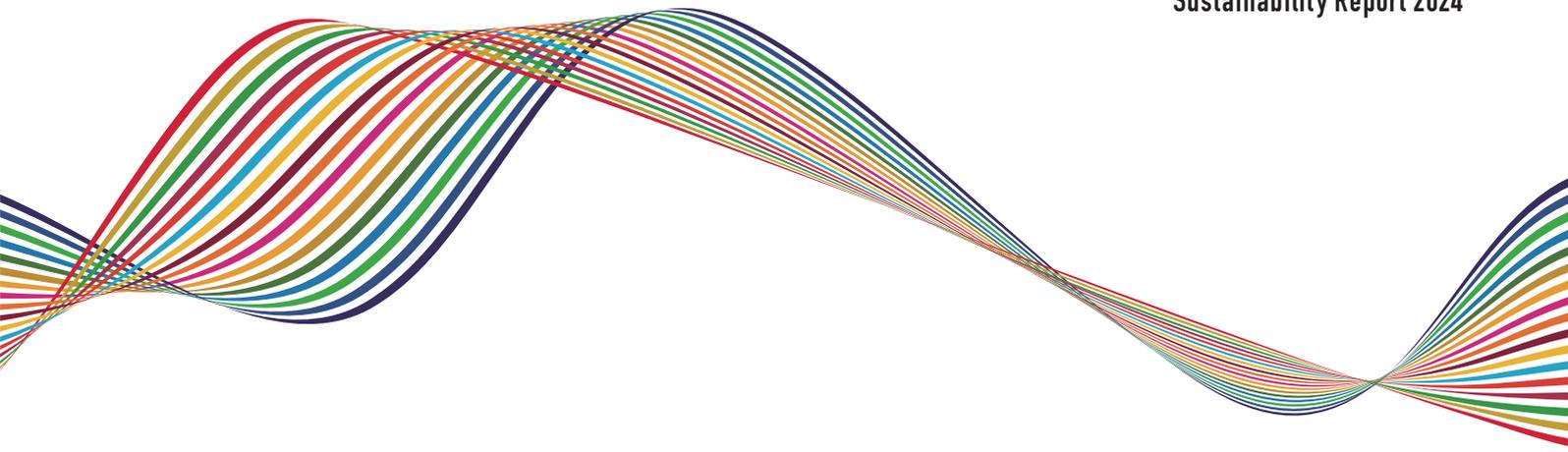


# トヨタエンタプライズの サステナビリティ レポート

2025年7月1日

# 2024

Sustainability Report 2024



# 目次

1. はじめに	1
2. 社長メッセージ	2
3. 2024年度 of 取組概要	3
4. 2024年度 of 取組事例	5
5. 会社全体の取組	10
6. 2025年度以降の取組	11
7. 社外有識者レビューコメント	12

## 免責事項

株式会社トヨタエンタプライズは、本レポートの記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失について、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かにかかわらず、一切の責任を負いません。これは、たとえ、株式会社トヨタエンタプライズがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。株式会社トヨタエンタプライズは、本レポートの論旨と一致しない他の資料を発行している、または今後発行する可能性があります。

『サステナビリティ レポート2024』は、株式会社トヨタエンタプライズ(以下、TEP)が持続可能な社会の構築への貢献に向けて、国連の『ビジネスと人権に関する指導原則』を踏まえた『SDGs宣言』に関するさまざまな活動をステークホルダーの皆様にお伝えすることを目的としています。

## SDGs宣言

### 宣言1) 健康と安全の維持

自社の活動を通じて安全衛生・交通安全活動を行い、サプライヤーを含む働く仲間の健康・安全意識を高め、安全・安心・快適なサービスを提供し続けます。



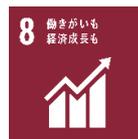
### 宣言2) プロ人材を増やす

必要な知識・技能・経験を持った人材の育成を推進し性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、意欲的で多様な働き方ができる会社を目指します。



### 宣言3) 環境負荷の低減

調達から廃棄までの全ての過程において、環境負荷の軽減に努め、環境に関する提案やカイゼン活動を推進します。



2024年度は、SDGsとSDGsの考え方の基礎となる『ビジネスと人権』についてさらなる社内浸透を進めてまいりました。また、仲間づくりを含む事業活動を通してSDGs目標の実現に取り組みました。

以下、その活動についてご報告させていただき、2025年度以降の活動の方向性について記載しています。

発行日 2025年7月1日



トヨタエンタプライズは、たくさんの『ありがとう』を創ることでお客様・社会・従業員の『幸せ』を実現するために、ビルメンテナンス、セキュリティ、アテンダントサービスなど、数多くの事業を通してあらゆる施設の運営に携わり、さまざまなお客様と触れ合う提案型総合サービス会社として歩んでおります。

世の中が日々、刻々と変化を繰り返す現代社会において、私たちに求められる仕事や役割も、目に見える、見えないにかかわらず常に変化しております。この途切れることのない変化に対し、当社は『人』を競争力の源泉として成長を続けてきました。当社の会社ロゴは青色の部分で『人』という字を表現し、『人』の字に刻まれた5本の線は、『手』を表しており、人の手による丁寧な安心感のある仕事を意味します。多様な人々が仲間となり、互いの能力・個性を大切にしつつ、ともに成長し続けることが、関係するすべてのステークホルダーの『幸せ』につながるものと考えております。

当社では『持続可能な社会の構築への貢献』に向けて2021年7月にSDGs宣言を行いました。2024年度も従業員一人ひとりがイキイキと働き、最大限に能力を発揮していくための入り口である宣言1(健康と安全の維持)を第一とし、宣言2(プロ人材を増やす)、宣言3(環境負荷の低減)に取り組んでおります。サステナビリティの考え方がビジネスに不可欠なものとなった今、当社もまた事業を継続していくためにはこのサステナビリティに対する取組を一步ずつ、着実に進めていくことが重要です。その着実な一步のため、自分事として行動し、誠実な心をもって挑戦し続けていかなければなりません。

サステナビリティは現役世代、未来ある子供、その先の世代へと、より良い社会と豊かな地球のバトンをつないでいくものと考えております。当社も70年以上にわたって積み上げてきた土台を活かしながら、社会課題を挑むべき事業成長の機会と捉え、『未来の社会づくり』に貢献してまいります。



代表取締役社長  
**牧野 武**

## 2024年度 取組スケジュール

日程	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
フェーズ	方針策定 → 事業活動を通じた取組 サステナビリティの考え方 従業員へ浸透			活動振り返り
実施事項	①目標設定	各職場 活動推進		点検・評価
	②ゴール17(パートナーシップで目標を達成しよう)の取組			
	③SDGsにつながる商品拡販			
			④従業員に向けた定期発信	⑤効果確認

### ① 目標設定(各職場 活動推進)

2023年度に引き続き、全社でTEP SDGs宣言1(健康と安全の維持)・同2(プロ人材を増やす)・同3(環境負荷の低減)を会社方針や部所長方針と関連付け、労働災害ゼロ・年間資格取得人数の増加・エネルギー効率改善など、全社統一の取組内容・単位を設定しながら取組を推進。

### ② ゴール17(パートナーシップで目標を達成しよう)の取組

SDGsに関する新たな仲間づくりとして、自治体の行う交流会などへ積極的に参加するとともに、TEPにもっとやれることがないか検討。また、2023年度に取得した『豊田市SDGs認証制度』シルバー認証をより良い活動につなげていくことを目指し、SDGs推進事務局および豊田事務所内の各職場と意見交換を実施。

### ③ SDGsにつながる商品拡販

お客様それぞれのSDGsに対する貢献をサポートできるよう、昨今の猛暑日の増加などを鑑みた『熱中症対策品』、企業が直面し得る緊急事態に備えるための『BCP\*対策品』、交通事故防止や運転寿命の延伸に貢献する『ドライブ・シミュレーター』などさまざまな商品を販売。また、SDGsにつながる商品(トヨタ自動車株式会社様 モバイルトイレ)について、展示会などにおける説明や販売の代理などをTEPが担当することにより、双方のSDGsに貢献。

※BCP(事業継続計画)とは、企業が自然災害や火災、テロなどの緊急事態に備え、重要な事業を継続・早期復旧できるように、平常時から対策や手順を定めておく計画のこと



『熱中症対策品』・『BCP対策品』  
リーフレット



ドライブ・シミュレーター  
(左:セーフティ・ドライビング・トレーナー / 右:コーディネーション・トレーナー)



トヨタ自動車株式会社様 モバイルトイレ  
(移動型バリアフリートイレトレーラー)

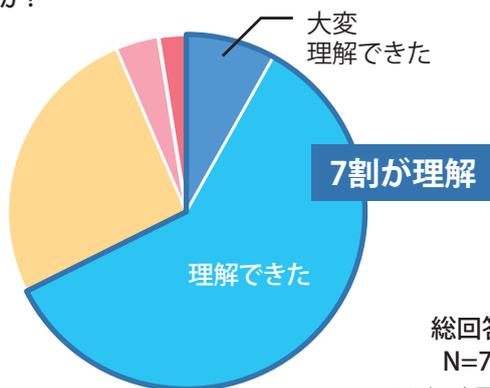
## ④ 従業員に向けた定期発信

従業員に対し、引き続きSDGsの考え方の浸透を図るため、取組による効果・他社取組事例・身近な(個人でも取り組める)事例をまとめたオリジナル資料を作成し、全従業員に向けて展開。また、改めて『トヨタ行動指針』について全従業員で理解を深める活動を展開。

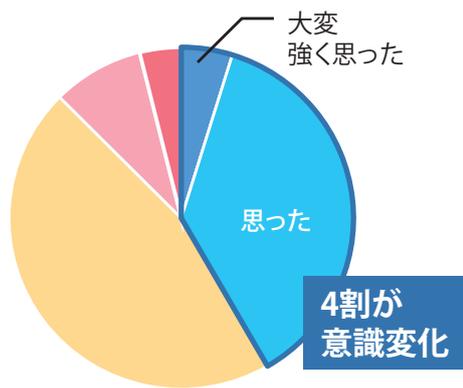
## ⑤ 効果確認

従業員に向けた定期発信の効果を昨年に引き続きアンケートにて検証。有効回答のうち、約7割の従業員が『人権に取り組むことがサステナビリティ(SDGs)の活動とつながっていること』を理解していると回答。また、気づきや関心が持てた項目は『ハラスメント』『安全・健康な労働環境』『差別の禁止、多様性の尊重・受容』が上位となり、約4割の従業員から『自分の考動に変化を起こそうと思う』との結果が得られた。

人権に取り組むことがサステナビリティ(SDGs)の活動とつながっていることは理解いただけましたか?



サステナビリティ(SDGs)に対する自分の考動に変化を起こそうと思いませんか?



総回答数  
N=724

※アンケート回答一部抜粋

有給取得ができていけると言う。業務計画の相談をする中で、一緒に働く仲間同士のプライベートも含めたコミュニケーションにもつながっており、各々、有給を趣味や地域の活動に参加する時間にあてていると言う。則さんは、『身体的な負荷があると精神的な負荷にもつながる。不安を取り除いてもらえる職場で

テクニカルサポート本部の則(すなはち)さんは、『年休を取得しやすいよう、職場の状況を考慮しつつ、1ヶ月前をめぐりに自分自身の有給予定を職場のグループ員に周知する』といった取組を10年以上継続している。『休むときはしっかりと休んで、働くときは業務を滞りなく終えられるよう体調を整えることを常に意識している』と話しており、職場の仲間と相談しながら業務計画を立て、ワークライフバランスを意識した計画的な有給取得ができていけると言う。業務計画の相談をする中で、一緒に働く仲間同士のプライベートも含めたコミュニケーションにもつながっており、各々、有給を趣味や地域の活動に参加する時間にあてていると言う。則さんは、『身体的な負荷があると精神的な負荷にもつながる。不安を取り除いてもらえる職場で



**働きやすい職場環境を目指した取組について従業員インタビュー**  
TEPではSDGs宣言に『健康と安全の維持』を掲げ、すべての人が安心して働ける会社を目指している。安全と健康を最優先して取り組んできたその姿を紹介。



↑碓氷峠鉄道文化むら：昔から乗り鉄として日本各地の鉄道に乗って巡るのが趣味

OJT風景：安全の学び舎(テクニカルセンター内)にて↓



そ不安なく働ける職場であり、安全・健康な労働環境だと考えている』とも話しており、テクニカルサポート本部では、業務に必要な備品類の安全な使用方法をOJTでレクチャーしたり、個人の特長に合わせた業務割り振りが以前から行われている。SDGsの中でも、ゴール8『働きがいも経済成長も』は、個人の働き方に深く関わっている。これは、すべての人が生産的で働きたいのある仕事をもち、持続可能な経済成長を促進することを目指すものであり、則さんや則さんの働く職場での取組は持続可能な働き方の実現につながっていると言える。

## TEP SDGs宣言1(健康と安全の維持)に関連する取組

### 【バリアフリー】

TEPは、2023年度よりトヨタ自動車株式会社様の『モバイルトイレ(移動型バリアフリートイレトレーラー)』について、展示会などでの説明や販売の代理、メンテナンスを担当し、2024年度は自治体の防災担当部局を中心に8台納車しています。

モバイルトイレは、災害時にも、電動車からの電力で稼働でき、車いすユーザー含めたすべての人が利用できます。また、有事の際のみならず、トイレが無いことを理由として外出のハードルの高い場所やイベント会場などに必要に応じて設置することも可能です。モバイルトイレの販売を通して、誰もが衛生的な生活を送れる環境の提供をサポートしています。

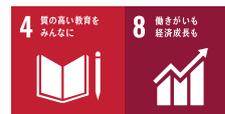


### 【防災】

TEPが管理運営している東海地区の研修施設では、大地震が想定される地域として、施設オーナー様と連携した消防訓練を毎年行っています。2024年度は、『地震から火災が発生した場合』を想定し、実際に人や物を動かした訓練を実施しました。訓練の中では、防災備蓄品の保管場所を現地確認し、備品の動作も現物確認を行うなど、『緊張感ある訓練』との評価をいただいています。また、施設オーナー様と他施設の訓練を見学し、そこで得た気づきなどを反映することで、さらなる訓練の質向上と安全・安心な施設環境の提供に取り組んでいます。



## TEP SDGs宣言2(プロ人材を増やす)に関連する取組



## 【働きがい】

自動車開発支援を中心に業務を行う職場では、地元中学校で開催されるキャリア特別講座に参加し、『なぜ、私たちは働くのか』についての講演を開催しました。車の開発業務の内容と、仕事を行ううえでの心構えや働く意義などをお伝えし、受講した中学生からは『仕事をするというのはどういうことで、どんなことが大切なのかを教えていただいた』、『仕事でしか得られないやりがいがあると知った』との声をいただいています。本取組を通して、働きがいのある仕事に対する関心の醸成に貢献しています。



## 【技能等習得】

工場などの警備を行う本部では、『ワクワクする仕事』への挑戦と警備員のさらなる技術向上を目的として、ドローン操縦の国家資格取得を推進しています。本部内およそ60名を対象に、二等無人航空機操縦士資格の取得を後押しし、さらに一部のメンバーは一等無人航空機操縦士資格にも挑戦しています。個人の能力向上を通して、成長できる職場づくりと人材づくりに取り組んでいます。



## 【働きがい】

工場などの警備を行う本部では、お客様に寄り添った提案ができる人材の育成をめざし、問題解決の勉強会を開催しています。志願者および若手中心の参加者が、グループワークや事後課題の発表会などを通して提案力の向上を図っています。業務上、自身が働く職場以外の従業員とコミュニケーションをとる機会が無いことから、勉強会を対面開催とすることで、職場を超えた仲間づくりの場としても設定しています。参加者からも、『グループワークなどで他職場の人とコミュニケーションがとれたのが良かった』との声が出ており、従業員同士の活発なコミュニケーションの促進と従業員一人ひとりのスキル向上を後押ししています。



## TEP SDGs宣言3(環境負荷の低減)に関連する取組

### 【ペーパーレス】

商品企画やデザイン制作を行う職場では、デザイン業務で発生するあおり検版※作業について、AIを活用した業務改善に取り組んでいます。従来人力で行っていた印刷物や出版物の制作過程で発生するミスの校正作業をデジタル化することで、色彩やミリ単位での差分を検出できるようになり、作業品質の向上と、従業員の労働時間の短縮につながっています。また、2024年度は社内報制作の一部にデジタル校正を導入したところ、およそ220枚のペーパーレスを実現しました。今後導入率を伸ばし、さらなるペーパーレスに努めてまいります。



赤色部分が差分検出された箇所



※あおり検版とは…校正方法の一つで、原稿と校正紙を重ね合わせ、一方の紙を素早くめくことで変更箇所を視覚的に確認する方法



### 【生物多様性】

TEPでは、生物多様性への配慮と『お客様にとって価値の高い緑地管理』の実現を目指し、人と自然が共生する未来づくりにチャレンジしています。



2024年度は、TEPが緑地管理する施設のひとつで、施設外の周辺環境を含めた調査を行い、生態系の各層を考慮し、自然の大切さや重要さを実感できるような緑地管理計画を立てています。具体的には、活動を活性化するためのシンボル種として準絶滅危惧種(ギフチョウ)を選定。施設のお客様と連携・協力して、生息場所となるような簡易ビオトープ※を設置し、生息調査を行っています。継続的な経過観察を通してより規模を上げた生育環境整備と緑地管理の実現に挑戦することで、環境保全に取り組んでいます。

※ビオトープ(Biotope)とは …………… 生物が生息・生育できる環境そのものを指す



### 【廃棄物削減】

お客様が開催する社内イベントの企画などを受注している職場では、トヨタ自動車株式会社様と共同で『クルマのシート端材を活用した子ども向けワークショップ』を提案し、お客様のサステナビリティに関する取組をお手伝いしています。



株式会社三五様の社内イベントでは、参加された従業員のお子様向けにレザークラフト無料体験を実施し、子どもにリサイクルやクルマへ関心を持ってもらうとともに、廃棄物の行方、資源の有効活用について考える機会を提供しています。お客様の従業員の皆さまの環境意識高揚の一助となるような提案を行うことで環境負荷の低減に取り組んでいます。

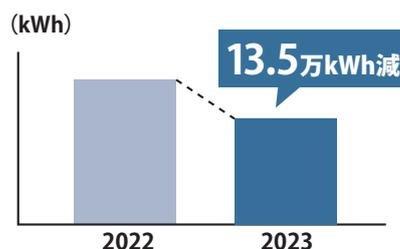


## 【カーボンニュートラル】

お客様からの委託業務でTEPが施設管理を行う研修施設において、空調設定の定期リセットによるエネルギー使用量の低減に取り組んでいます。2023年度のトライアルでは2022年度比約13.5万kWhの削減を実現。2024年度も活動を継続し、施設の稼働率の増加と比較してエネルギー使用量は微増にとどめるなど、施設オーナーから喜びの声をいただいています。日頃の業務の中で取り組める身近な事から、地道な活動を積み重ね、CO2削減・環境負荷の低減の促進を図っています。



▶エネルギー使用量



## ダイバーシティ&インクルージョン



TEPでは、特定技能外国人、外国人技能実習生(以下、実習生)の『働きやすい環境づくり』を目指し、座談会活動を実施しています。2024年度は、社内の実習生34名を対象に、業務と生活両面の現状や困りごとについてヒアリングし、合わせてテーマに基づいた勉強会を行うことで、困りごとの解消と必要な情報の発信に取り組んでいます。また、個別相談へも適宜対応できるよう、ツールの導入も進めており、これらの活動を通して、安全・安心で、全ての仲間が自分らしく活躍できる職場づくりに引き続き努めています。



### 勉強会を行ったテーマの例

- ① 自転車ルール … 通行・駐輪ルール、標識の種類や意味 など
- ② 地震・津波 … 有事の際の身の守り方、避難場所、緊急連絡網 など
- ③ インターネット・電話詐欺 … 社会で起こっているSNSや電話などによる詐欺事例の情報共有

## TEPと地域が連携して貢献するSDGsゴール



### 【パートナーシップ】

豊田市で工場の通門警備を行う職場では、地域社会の一員として、市が推し進める『ささえあいネット～高齢者見守りホットライン～』に登録しています。日々の警備業務の中で、周辺地域の高齢者に関して気掛かりなことを感じた際に、対象者の保護と市の指定番号に連絡を行う活動を通して、地域住民が安心して生活できるネットワーク体制の構築に貢献しています。



## 【パートナーシップ】

TEPが指定管理者として運営している各施設では、地域社会の一員として地域のにぎわい創出に取り組んでいます。豊明市共生交流プラザ『カラット』では、『トヨタ自動車アンテロープス』の選手を招いたバスケットボール教室を開催し、プレー向上に向けた技術的なアドバイスに加え、選手との写真撮影、サイン会などを実施し交流を図りました。当日は、小学校5年生～中学校3年生までの男女50名が参加し、『また開催して欲しい』との声をいただいています。これら活動を通して、楽しみながら健康の維持につながるような運動の普及推進の後押しを図っています。



## 【パートナーシップ】

TEPでは、自治体が主催する企業交流会などに積極的に参加し、SDGs目標の実現に向けた仲間づくりを継続して推進しています。2024年度は、交流会で出会ったポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社様と連携し、TEPが指定管理者として運営する施設において市民向け食育講座『レモン教室※』を共催し、地域住民へSDGsにつながる学びの場を提供しています。



あい農パーク春日井※で開催した『レモン教室』講座の様子

※レモン教室とは …………… ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社様が提供しているレモンの健康効果や歴史、活用方法などについての体験型講座  
 ※あい農パーク春日井とは … 愛知県春日井市にあり、子どもからシニアまで幅広い世代が『農』に親しむことができるよう多彩なプログラムや設備が整う農業公園。収穫の喜びや自然とのふれあいを通して『農業』への理解を深めることができる

## その他



## 【パートナーシップ】

TEPでは、自社だけでなく協力会社様と共に事業活動における『事故災害ゼロ』を目指して、トヨタエンタプライズ安全衛生協力会(以下、安全衛生協力会)に協賛し、安全活動を推進しています。安全衛生協力会は、地区別に分けられた4支部と業種に分けられた5つの専門部会で構成されており、活動の一例として清掃部会では、2024年度に『清掃技術交流会』による会員同士の意見交換などの活動を行っています。化学物質管理に関する法改正への対応や、現場の困り事とその対策について情報共有を行い、参加者からは、『情報交換できてよかった』、『他社事例をお聞きでき参考になった』との声が出ています。安全・安心な労働環境のさらなる推進に向けて、安全活動を継続していきます。



### 【コンプライアンスの維持と徹底】

TEPでは、すべての人が安心して働ける会社を目指し、各職場がそれぞれ関連する法令などに則った適切な業務遂行を継続できるよう定期的な点検を行っています。この点検は全職場を対象とし、経営層から現場で働く従業員まで参加しています。一部の法令についてはポイントを紹介したガイドを整備することで法令遵守の徹底に取り組むなど、安全・安心に働ける職場づくりに努めています。また、eラーニングを用いて理解度チェックと要点を学ぶなど、従業員一人ひとりが正しい知識と高い意識を持つためのコンプライアンス研修を実施しています。加えて、巡回点検、点検結果のフィードバックを実施するとともに『コンプライアンス ハンドブック』を定期的に更新し、業務に関わる多くの法令などを事例とともに分かりやすく紹介するなど、いつでも復習や必要事項の確認ができる環境づくりを行っています。



### 【働きやすい職場づくり】

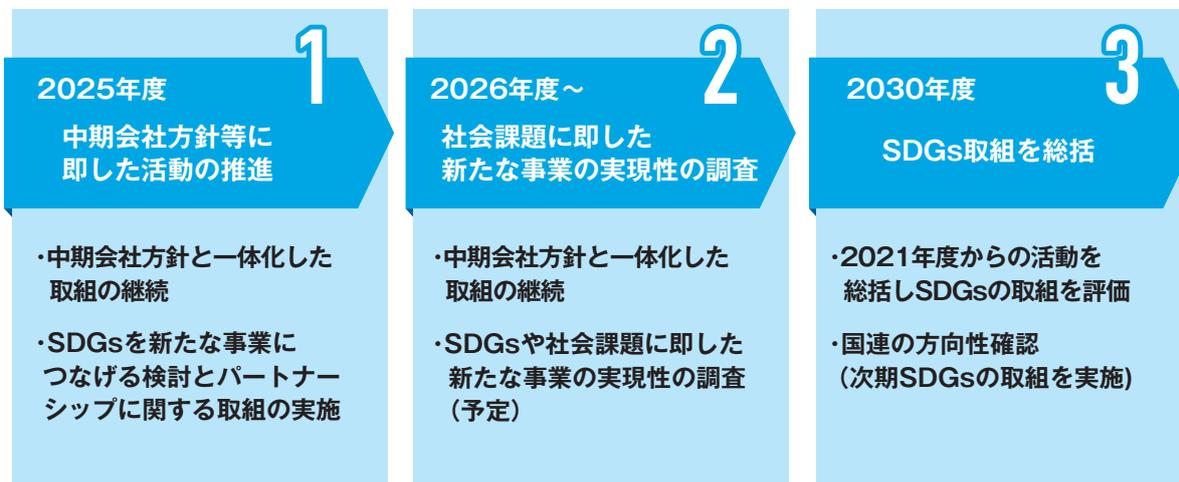
TEPでは、従業員がより働きやすく、能力を発揮し活躍できる会社を目指して多様な働き方につながる制度を導入しています。2023年度には、育児や介護を理由とした時短勤務社員制度において、適用条件を見直し、制度適用期間を延伸しました。TEPでは必要に応じて制度内容を見直すとともに、従業員のライフスタイルに合わせた勤務を選択できるようにすることで、全ての従業員が働きやすく、活躍し続けられるようサポートしています。

### 【ICHIGAN活動】

TEPでは、一体感醸成の風土づくりを目指して、2016年度よりICHIGAN活動を実施しています。この活動では、毎年さまざまな活動を実施しており、2024年度はゴミ拾い&ウォーキング、フォトコンテスト、モルック大会など6種類のコンテンツを実施しました。このうち、従業員の健康増進と環境への貢献を目指したゴミ拾い&ウォーキングでは、各地区、各職場などにおいて延べ50回以上開催し、身近な活動を通して環境問題について考える機会を創出することで、環境負荷低減に対する意識の醸成も図っています。



## 2025年度以降の取組スケジュール



- ① 2025年度は、中期会社方針(2024～2026年度)とTEP SDGs宣言を一体化した取組を継続するとともに、TEPが目指す会社ビジョンを従業員へ発信するなど、引き続きそれぞれの宣言に対する活動に取り組む。TEPのSDGsに関する取組を持続可能なものとしていけるよう、SDGsを新たな事業につなげる検討を継続するとともに、ゴール17(パートナーシップで目標を達成しよう)の取組を引き続き実施。
- ② 2026年度は、2025年度の活動を継続するとともに、SDGsや社会課題に即した新たな事業の実現性を調査。(予定)
- ③ 2030年度は、国連が定めるSDGsゴール達成の期限を迎えるためTEPの2021年度からの活動を総括するとともに国連の方向性を確認した上で、以降の取組の在り方を検討。(予定)

TEPでは、従業員に対するSDGsの考え方の浸透を図るために、他社事例や従業員にとって身近な事例をまとめたオリジナルの資料を作成するなど、全従業員に向けての発信に積極的に取り組まれてきました。

従業員を対象としたアンケートの回答において、約7割の従業員が人権とサステナビリティとのつながりを理解しているという回答からも、TEPのサステナビリティについての考え方が着実に従業員に浸透していることが伺え、TEPの全従業員の理解浸透に向けた取組を高く評価します。

今後、着実な取組の継続により、従業員による更なる行動変容がなされ、SDGs達成に向けたアクションが推進されることを期待します。  
また、トヨタグループを含め推進する『仕入先サステナビリティガイドライン』の取引先への周知や徹底に取り組まれることを目標としていただけると幸いです。



一般社団法人  
ザ・グローバル・フォー・  
サステナブル・  
サプライチェーン

代表理事  
**和田 征樹**



